

なぜ沙流川流域にチャシが集中するのか？ —北海道におけるチャシの分布と社会類型—

2025.10.11 平取町 瀬川拓郎（札幌大学）

15～18世紀に営まれたアイヌのチャシは全道で500か所を超える。その機能については砦・首長の居城・聖域など諸説あるが、基本的には首長のモニュメントであり、その造営や規模は首長に統括された集団の経済的力量を反映するとみられる。チャシの分布は道東太平洋側の釧路・根室と沙流川水系に強く集中しており、この偏在については、チャシを砦とみなし、アイヌ対和人の抗争の波及時期との関連を説く意見もあるが、ここでは社会類型とチャシ分布の関係という視点を提示する。

1 チャシ造営の集団単位

上川盆地 広大な盆地内に散在する集落は3つの地域集団に分かれ、地域集団ごとにチャシを造営。

美幌盆地 首長の勢力範囲内の集落成員男女が総出でチャシ造営に参加との伝承（リンナイチャシ）。

沙流川流域 沙流川筋に分布する集落ごとにチャシを造営？。イルエカシ遺跡⇔シラッセシチャシ。ポロモイチャシ⇔二風谷遺跡。シュンコツ集落が拠るのがタプコサラ（ヌベルンナイチャシ）との伝承。

2 集団単位はなぜ異なるのか—生業と定住性の視点

上川盆地 集落は河川氾濫が繰り返される低位段丘面上に立地。産卵場である湧水池からの小河川を占め、サケ漁を行なう1～3軒の小集落。氾濫によって漁場の小河川が移動し、これにともなって集落も移動。盆地内にはサケ産卵場が集中するエリアが3つあり、そのエリアを占めて3つの地域集団が展開。集落はそれぞれの地域集団内で移動をくりかえす。定住性の単位は地域集団（美幌も同？）。

沙流川流域 集落は河川氾濫が及びにくい段丘上。農業主体で定住性が高い。集落に一定程度人口集中。

※松浦武一郎によれば、平取周辺は土壌がきわめて肥沃で、アイヌは雑穀のアワ・ヒエ、根菜のダイコン・カブ・ジャガイモ、果菜のカボチャ・キュウリ・インゲン、タバコを栽培。脇乙名は雑穀を毎年30俵も倉庫に備蓄。農耕作物が食料等に占める比重は大。松浦は、この地域は四方を見通すことができる「蝦夷第一の開け場所」としており、農耕集落が点在して他地域とは異なる活況をみせ、森林が開かれて耕地が広がっていた。

3 社会類型(集落定住性+生業)と全道のチャシ分布

■内陸Aタイプ（石狩川水系・天塩川水系・十勝川水系）

産卵場サケ漁+陸獣毛皮猟/集落はごく小規模/集落定住性

<弱>/地域集団がチャシの造営主体→チャシ<少>

■内陸Bタイプ（沙流川流域・静内川流域）

農耕+陸獣毛皮猟/集落に人口集中/集落定住性<強>/集落

がチャシの造営主体→チャシ<多>

■沿岸Aタイプ（道央～道北日本海沿岸）

大陸—サハリ—道内内陸—本土の流通拠点/主要河川の河

口港に大規模集落/集落定住性<強>/集落がチャシの造営主体

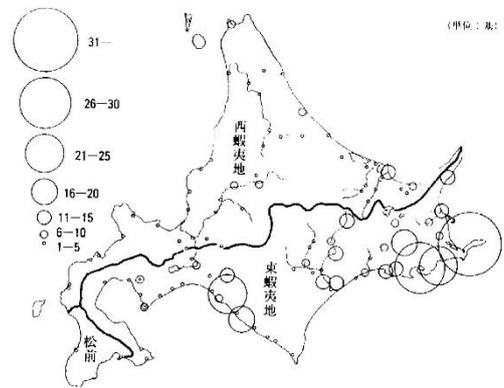
→チャシ<極少>

■沿岸Bタイプ（釧路・根室沿岸）

流通拠点+複合的な交易品生産（春～夏：千島交易⇔ラッコ・オオワシ、秋：内陸サケ漁、冬：海獣オオワシ猟）

⇔隷属民を生産に使役/集落に人口集中/集落定住性<強>/河口港のほか沿岸各地の集落が造営主体

→チャシ<極多>



宇田川 1994「チャシとアイヌ社会」『アイヌのチャシとその世界』

■沿岸Cタイプ（オホーツク海沿岸）

沿岸Bタイプ（流通拠点+複合的交易品生産）の亜種。Bタイプの中核的生業である千島交易を欠き、海獣・オオワシなどの資源も釧路・根室沿岸にくらべて分散的？／基本的に流通拠点として主要河川の河口港を中心に集落／集落定住性<強>／集落がチャシの造営主体⇒チャシ<少>

4 アイヌ社会の経済的中核エリアとチャシの分布

第1エリア 道央～道北日本海沿岸（⇒チャシ<極少>）

【沿岸Aタイプ】

大陸—サハリン—北海道内陸—本土の中継交易に従事する富の集中エリア。隷属民記事あり。限られた主要河川の河口港に集落が点在するため、見かけ上チャシは集中しない。

第2エリア 釧路・根室沿岸（⇒チャシ<極多>）

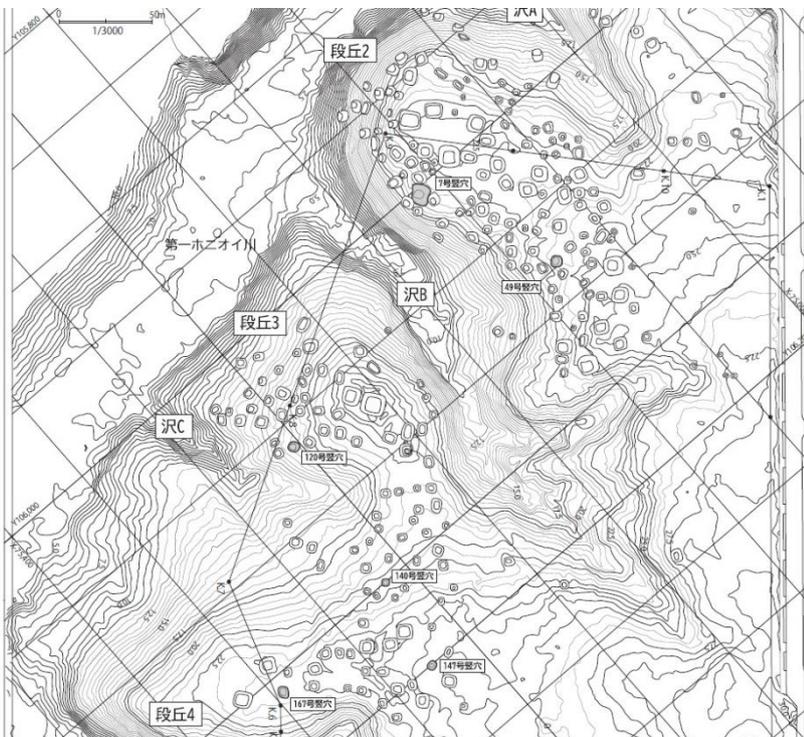
【沿岸Bタイプ】

千島交易／海獣・オオワシ猟／内陸でのサケ漁を組み合わせた富の集中エリア。隷属民記事あり。個別集落の定住性が高いためチャシが集中する。1789年のクナシリ・メナシの戦いにチャシ関係記事がみえることから、アイヌの主体的な経済的中核エリアとしての特性が失われるこの時期まで、チャシの造営がおこなわれた可能性。

第3エリア 沙流川流域・静内川流域（⇒チャシ<多>）

【内陸Bタイプ】

経済的中核とはいいがたい農村地域だが、1669年のシャクシャインの戦いまでは、金の生産拠点としてアイヌ社会における富の集中エリアか。農耕主体の生業は、男性が採金活動に従事し手薄になる食糧生産を補完するものであり、採金活動禁止後は、金の生産拠点としての役割を失いながら農耕主体の生業形態が残存？チャシ造営はシャクシャインの戦いまで？



資料【根室市西月ヶ岡遺跡】

擦文時代末期の根室半島における中心的な集落遺跡。多くは未発掘。

段丘先端の丘頂部を大型住居が占め、それ以外の平坦面には中型住居が、また大型住居の下の急斜面には横長でごく小型の住居が多数取り囲む。このような階層的な構成は、他地域ではほとんどみることができない。

近世末期のクナシリ島の首長イコリカヤは、30棟ほどの隷属民の住居を、自分の住居より一段低い川岸（氾濫原）に設けていた。

西月ヶ岡遺跡は、このような集落の階層的状況が、根室地域ではすでに擦文時代末期に存在した可能性を考えさせる。